議事概要

会議の名称	令和５年度第３回三田市子ども審議会
開催の日時	令和６年３月 21 日（木）10 時 30 分～12 時 00 分
開催の場所	オンライン開催
出席した委員の氏名	名須川知子会長、中西利恵副会長、中島正美委員、伊藤綾香委員、藤原慶子委員、山地真由美委員、原口富美子委員、森田美穂委員、平岡浩二委員、大島一晃委員、宮武雅恵委員、田畑梨沙委員
出席した職員の職及び氏名	（事務局） 西垣戸子ども・未来部長、喜多子ども未来室長、横溝子育て応援室長、松下すくすく子育て課長、神影健やか育成課長、上島子ども家庭課長、井上保育振興課長、藤田幼児教育振興課長、久後幼児教育振興課参事、田中学校教育課長、平石若者のまちづくり課長、西中すくすく子育て課副課長、小西すくすく子育て課係長、西すくすく子育て課係長、差尾すくすく子育て課主任、谷本すくすく子育て課職員
傍聴人の人数	１名
議題	・三田市子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査等結果（第１次報告） （資料１、資料１－２、資料１－３） ・認定こども園に係る利用定員について（資料２）
報告	
会議の概要	P2～10
公開・非公開の区分	公開
使用した資料	【資料１－１】三田市子ども･子育て支援事業に関するニーズ調査等結果（第１次報告） 【資料１－２】保護者の調査結果ダイジェスト 【資料１－３】中高生と若者調査結果ダイジェスト 【資料２】認定こども園に係る利用定員について
連絡先	子ども・未来部　子ども未来室　すくすく子育て課　電話（079）559-5079

会議経過

１．開会

２．あいさつ

【部長あいさつ】

【委員欠席６名　過半数以上の出席があり会議成立】

３．議題

・三田市子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査等結果

（事務局より説明）　　・・・【資料１－１】【資料１－２】【資料１－３】

会　長：子育ては楽しくということはありますが、安心して子育てできるような環境をつくるということが三田市としても非常に大事なことだと思います。また先日、学生を引き連れてニュージーランドを訪問しまして、１０日ほど保育実習などを行ってきましたが、そこで感じたことは、子どもはもちろん大切にしますが、まずは家族を大切にし、家族のライフスタイルがそれぞれあり、それぞれに応じて家族全体が安全で安心して、そして楽しくしていくと、結果的に子どももその中で健やかに育つという政策でした。そうすると、働き方改革の問題とか、ジェンダーの問題とか、住環境ももちろん、子どもだけの問題も関連してきます。そうしたことを感じて学んできました。日本も、そういうことを実現できる福祉国家として、これからしっかり子どもの施策を進めて行っていってほしいと思います。

それでは審議に入っていきたいと思います。事前にお知らせしていたように調査結果のダイジェストで、図のようにしていただいた資料になります。事前にご覧になって気になっていること、日頃の気持ちも合わせて、時間の制約上できる限り絞ってお話しいただきたいと思います。

順番にいきたいと思います。まず、三田市の未就学児・小学生の保護者像と取り巻く状況という資料１－２について、それから次の段階で、中高生・若者と当事者に直接聞いたもの、２つにわけてお聞きします。それでは資料１－２について、特に気付いた点等があれば、一人一言ずつご意見をいただきたいと思います。

委　員：資料１－２の下の「利用したい公共施設」について。孫が来ていて、駅前交流広場や「ふらっと」に行ったのですが、子どもの数が少ないことに驚きました。それと、「おでかけふらっと」に手伝いに行っていますが、子どもの数が少ないです。もっと周知する必

要があるのではないかと思っています。

会　長：せっかく施設があるのに、利用している子どもの数が少ないということですね。

委　員：もう少し周知していただける方法をと思っています。

会　長：次にどなたか、いかがでしょうか。

委　員:左上のオレンジ色の箇所の４について。家事･育児の分担の理想はすごく高いのですが、現実はその半分くらいなので、これを理想に近づけるためにはどうすれば良いのかと思いました。私も仕事をしている時は、家事・育児はほとんどやっていました。そういう家庭が多いと思います。

会　長：家事・育児の分担に、理想と現実に大きなギャップがあることがはっきりしたということで、大きな課題だと思います。

委　員：相談相手について、学校の先生の割合が減少とありますが、未就学児の場合は認定こども園等の先生と身近にお話しする機会があっても、小学校に入ると敷居が高く、話す機会がありません。１年生の間は入って間なしなので先生とお話しする機会があるのですが、２年生になったと同時に参観日の後の学級集会にほとんどの保護者が参加されていないのが現状です。それに対して知り合いの学校の先生からも、何人来るのかわからないのに準備することが大変だと聞きます。保護者はそれを求めていないのに、学校の先生はその作業が負担だという、両方が良い状態ではないと思います。保護者目線で保護者に何か訴えようとする時間を設けるのであれば、子ども達が先生に相談できる時間を設けるほうが大事だと思います。保護者には希望すれば個人面談ができますが、子ども達が先生に何か相談する場が設けられていません。だったら学級集会を廃止して、子ども達が個別に一人ずつ先生と対面する時間を設けたほうが良いと感じました。

会　長：学校教育のご提案も含めてお話しいただきました。

委　員：左上のオレンジ色の箇所の１の母親の就労率が前回より増加しているところに、一番興味がありました。本園は認定こども園なので、１号認定を多く定員として取っているのですが、今日は春休みですが普段通りに近い半数以上の子ども達が園に通っている状

況です。さらに２号認定の受入れを増やしていく必要があると感じています。しかしながら、それに伴う職員の配置が厳しい状況です。先生方の確保は年々厳しくなっているので、三田市と協力しながら就職フェア以外にもいろいろなアプローチをして、有資格者の就職率をあげていきたいと考えています。

会　長：就労率の増加と必要な認定こども園の職員の関係もおっしゃっていただいたと思います。

委　員：ちょうど土曜日に卒園式で、次小学校に上がる時の児童クラブについて保護者からの相談が多いです。また、働きながら子育てしている職員も多いです。小学校に上がった時の保育園との受入れ時間の違いで、働き方を考える職員、保護者も多いので、児童クラブはすごく大事になってくると考えています。朝７時から保育園に預けて仕事に行かれる方もいらっしゃるし、保育園の職員も７時から勤務があるので、助けてくれる方がいる場合は良いのですが、ファミリーサポートは仕組みがあっても受け手がいないことも大きな課題と感じました。

会　長：小学校入学後のデータから児童クラブに関してお話しいただいたと思います。

委　員：放課後こども教室を運営していて、普段感じることをお話しさせていただきます。資料１－２の右下に、「放課後こども教室の利用意向減」とあります。保護者に通知して申し込んでもらうのですが、内容的なことがあるので一概には言えないのですが、保護者がゆっくり学校からのお便りを見て子どもと話し合って申し込むという過程ができていないご家庭が多いと思います。それは何故か考えると、資料１－２の左上にあるように母親の就労率の増加と、家庭での家事・育児の負担が母親に偏っているところもあるのではないかと思います。シングルで体力がないご家庭ほど申し込み率が低いような気がします。私はこども食堂もしていますが、子どもが来たいと言っても、お母さんは申し込みがあったことを知らないこともあり、いっぱいいっぱいの方が多いのかなと。冒頭に会長がおっしゃっていたように、家庭を大切にしないと地域との繋がり等余裕のあることはできないし、先生方も多忙で子ども一人一人と向き合う時間もない。全てにおいて、いっぱいいっぱいで回っていない部分が多いと思いました。ニュージーランドの家庭を大切にする制度がどんなものか、具体的にお聞きしたいと興味深く感じました。

会　長：ゆとりをどうやって家庭的の中で生み出すか、そういう社会的なシステムが非常にポイントだと感じました。

委　員：私も子育てしながら仕事もしているので、ゆとりがほとんどありません。地域の繋がりが希薄になりつつあるのは、日々子育て・仕事・家のことでそこまで余裕がなく、周囲と繋がりがないことはないけど平日はほとんど時間がないためかと思いました。

会　長：ゆとりがポイントだということです。

委　員：働くお母さんが増える中で、コアタイム、フレックス、短時間勤務の会社も増えていき、社会で子育てを応援していく動きになれば良いと感じます。あと、父親の育児休暇取得率が上がっているとありますが、ほとんどの方が気軽に取得できるようになってきていますので、そのあたりは社会的に良くなっている実感があります。

委　員：「体罰」のところが一番気になります。それと、その左の「子育ての困り事の相談経験の有無」との関係性、相関がどうなっているのか興味があります。実際に子育ての困り事があった時に、行政の相談窓口に行かないのはよくあることで、そのために１クッション２クッションあって、初めて相談窓口にたどり着くだろうと。その１クッションになり得るＰＴＡだったり地域だったり、気軽に相談できる相談先がどんどん減っている現状があります。食糧配布会を神戸市や三田市でもしていますが、それも含めて信頼できる人との出会い方を意図的に作っていかないと、これからどんどん孤立孤独な状態になり、最悪な自体が発生していくのではないかと危惧しています。

会　長：１クッション置くことが一つのポイントとなることは、おっしゃるとおりだと思います。

委　員：先ほどからキーワードとして「家庭を大切にしないと」とあり、私も耳が痛いです。改めて自分の家庭も見直したいと思います。資料１－２の左上の母親の就労率が前回より増加しています。この後の議題にもなると思いますが、資料２のみつば幼稚園の２号認定は、他の認定こども園の２号認定にも関連すると思いますが、定員が 15 で良いのか、需要に対する供給は合っているのか、判断する一つの材料になると考えています。

委　員：国の「はじめの 100 か月の育ちビジョン」の中にも、子どものウェルビーイングを向上することはもちろんですが、保護者・養育者のウェルビーイングを応援しなければいけ

ないと入っています。その点について、多くの委員からご発言いただいた内容と一致すると思いながら伺っていました。

右上の、子育てについて負担は感じているけど楽しめているという意見が増えたことは、嬉しく思いました。

会　長：私も皆さんと同様に気付いた点ですが、特に喜びを共有できるような共に育てる教育、そういう意味では図右側にある仲間や近所との繋がりが持てると良いと思います。その関わりが困り事の相談の１クッションにも繋がるだろうし、本当に子育てに困った時に相談できると思います。相談されたほうも、自分が抱えられなければ市等に紹介することもできると思います。そのあたりが今度の新しい計画に繋がっていけば良いと思うところです。

次に資料１－３について、ご意見をいただけたらと思います。

委　員：「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」と、真ん中の中高生と若者の「②今の悩み」の「勉強や成績のこと」「将来のこと」を見ると、中高生が本当に勉強したいのか、将来何になりたいのか、という部分と、親の過剰な子育て、教育の部分でのミスマッチがあるのかもしれないと思います。将来自分が何をしたいのか、どのように進んでいくのかについて、何か将来を体験できる施設等があれば良いと思っています。

委　員：全国的なアンケート調査を見ても、概ねこんなものだろうというのが正直な感想です。一方で、若者が希望を持っていないのが国の平均よりかなり低いことに興味を持ちました。その下の相談しやすい方法については、それはそう書くけど実際には相談しないと思います。やり方じゃなくて、どういう条件が整えば相談するのかに焦点をあてないと、中高生は相談してくれないというのが、今までの経験上思うところです。

一番気になったのは、一番下の「中高生に聞きました」の赤字の部分です。これは全国的に見ても同様の回答ですが、どんな時にそんなことを感じたのか。例えば、実際に大人に何かプレゼンをする機会があって、その場で否定された経験があるからこうなったのであればよくわかりますが、私の感覚で言うとそんなにないと思います。別の調査になりますが、大人が子どもに対してしている認識と、子どもがそれを受け取っているという認識には、絶対ズレがあります。ただ、それが本当に同じテーブル上で話し合った上でこう感じたのか。要はコミュニケーションのミスマッチだと思うのですが、実際に一緒にしてもいないけど何となくそんなふうに感じるから、このように回答したのではないか、というところが一定数あるのではないか。その意味では子どもがこのよ

うに感じた背景を知りたいですし、一方で大人と子どもが対話の場を作っていくことが大事になるのではないかと思います。

会　長：確かにこの審議会メンバーもそれなりの年齢の人の集まりなので、会議メンバーの年齢構成も考えていくことも一つの方法かもしれません。

委　員：若者の部分の７番の「子どもを育てることについてどのように思う？」で、「大変そうだ」という回答が約８割あるのが気になりました。子どもが本当に子育ては大変だと思う背景として、お子さんを預けて働く大変さが子どもに伝わっているのではないか。あと、「大人に望むコト」として「子どものことをあれこれ言う前に、大人自身がきちんとしてほしい」とあるので、子どもは大人のことをしっかり見ているだろうし、大人が先頭に立ってやっていかないといけないと思いました。地域ですれ違う時に挨拶をしない方が結構おられて、子ども達も同じように挨拶しなくなる傾向にあると思います。大人が先に挨拶して気軽に話ができる地域になれば良いと思いました。

会　長：挨拶については、本当にそのとおりです。

委　員：「子がほしくない理由」が「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」というのが、現実的だと思いました。子どもを育てることが大変そうという人が多いのも、両親が大変そうに見せてしまっているのかもしれない。あと、「大人に望むコト」の「気軽に挨拶をしたり～」は、子どもだけの時や親がいない時に挨拶をされたり話しかけられたりすると、不審に思う時があるみたいです。いろいろな事件があるので、子どもながらに不安に思うこともあり、難しいところだと思いました。

委　員：子どもは大人を見て感覚的なところで回答している部分が多いのではないかと感じました。実際に子どもと関わっている中高生や若者はどれくらいいるのか、多分ほぼ経験ゼロだと思います。今の日本の地域社会は、世代ごとに分断しているというか縦の繋がりが少ないので、世代間のコミュニケーションはすごく少ないような気がします。イメージで回答していて、実際に子どもと関わる楽しさはやってみないとわからない。放課後こども教室に来る学生の人達は子どもと関わって喜んでくださっているし、卒業生も時々遊びに来ますが、普段こんなに小さい子と関わることがなかったけど面白いね、と言ってくれたりします。やってみないとわからないので、それによってはこの結果はすごく関わってくると思います。将来の子どもを作る、作らないにしても、そういうと

ころが関わってくると思います。世代間コミュニケーションや体験は大事だと思っています。今は地域でのボランティア活動の経験を求める企業が多いようで、よくボランティア証明書を出せますかと聞かれます。それを目的にされると違うような気もしますが、それもきっかけの一つとして、企業がそのように動いてくれているので、若者もそういう活動に飛び込む意欲が出てきていると思います。企業も含めて、社会全体で世代間コミュニケーションがもっと取れるようなシステム作りを考える必要があると思います。

会　長：最後のキーワードの世代間コミュニケーションが取れるような施策を作れるような方向に向かうと良いと思います。

委　員：この結果を見て、情報として入ってきていることが不安に繋がっていると感じました。トライやるウィークで中学２年生の子が来た時に喜んで関わっている姿があったり、自分もこんなふうに周りに声かけしてもらったり愛情をかけてもらって今があることを知るきっかけになったと聞きます。やはり、体験することはすごく大事です。その体験する場として、保育園はどんどん提供していきたいと感じています。

委　員：皆さんと同じことしか思い浮かばないのですが、中高生と若者の自己肯定感が伸びていることは喜ばしいと感じました。あと、将来子どもがほしい等が数字として大きくあがってこないところが、現実とイメージの違いもあると思います。本園でもトライやるウィークや高校生等の活動事業体験をやっていますが、一部の生徒しか来ていただけないので、もっと違う形で来てもらえると小さい子どもと関わることで、自分が小さい時にこんなふうに保護者の方に育ててもらったという感覚を思い出したり、また疑似体験をすることで将来の自分のイメージにも結び付きやすいと感じました。

委　員：集団登校の見守り安全に立った時に子ども達を見ていると、大人が思う以上に自分達の考えを持ってしっかりしているのに、何故か頭の固い大人の保守的なルールによって子どもの自由な考え方が抑えられていると思います。本来なら人助けしようという思いがあっても、ルールには合わないからそれができない状況があったりもします。自分達で考えて発信できるような環境をもっと作るべきだと思うので、集団登校も三田市はありますが、神戸市の一部ではない場所もあるので、なくても良いと思っています。朝から自由に自分達の考えで友達を誘ったりコミュニケーションを取ったりすることも、一つの勉強だと思います。ルールばかりを作るのではなく、自分達で考えて楽しく

学校生活を送れるようなシステムや、状況に応じたルールを作れば良いのではないかと思います。あと、神戸市のような通学定期の助成金も含めて検討していただけたらと思います。

委　員：皆さんと被ってしまうところは多いのですが、一番下の「中高生に聞きました」で「気軽にあいさつをしたり、声をかけてほしい」が多かったことに、良い意味で驚きました。子ども扱いしてほしくないのは、地域や近所の方に対してというよりも、親にそう思っている子どもさんが多いのではないかと思います。今は個性をどんどん伸ばそうという時代になっていますが、個性だけ伸びても受験の時にある程度成績が良くないと行きたい学校に入れないとなると、親も子どもに厳しく言うのかなと思います。会長がおっしゃったように、家族が幸せだと子どもは幸せになるし、親が幸せなのを見ていたら、結婚したい、子どもを産み育てたいという思いに繋がると思います。大人や親が幸せになれるような三田市になれば良いと思いました。

委　員：今は声をかけてもそれが良いように感じられない時があるので、社会全体が挨拶をすることは良いことだとなってほしいと思います。それと、子ども扱いや、大人がきちんとしてほしいという回答も、具体的に何かつけるようなことはなかったかと思います。

会　長：もう少し詳しいデータが今後出てくるのではないかと思います。

委　員：三田市の場合は中高の現場の協力があり、回収率がほぼ100%に近いので、ここであがってきたものは大事に扱わないといけないと思います。未就学児も６割近く、小学生も５割以上で、他市ではここまで回収率が高いことはなかなかないと思います。未就学児、小学生、中高生、若者それぞれに出てきた課題は、繋げていかないといけないと思いました。中高生は、今から子どもがほしいと思わない、育児は大変そうと言っている反面、一緒に子育てしたいと考えてくれているし、実際子育てしている保護者は負担を感じながらも楽しいと思っています。先ほど「体験」というキーワードがありましたが、教育の場が持つ役割の大きさも感じました。例えばそれ以外にも、中高生の相談しやすい方法の一位は「対面」とあります。先ほど小学生の時に、学級集会を止めて個人面談にしたほうが良い、ニーズはそこだとおっしゃっていました。そういう体制がとれることによって、もっと声が拾えます。職場の改善や人材の確保等も並行して必要になってくると思います。家庭でもいっぱいいっぱいの方が多いから、そこをどうするか。全部が繋がってきています。体験活動は、今すぐにでも三田市の特性を活かしてできることも

たくさんあると思います。今後のプランニングに繋げていけたらと思いながら聞いていました。

会　長：この結果に表れているように、体験として海外旅行や海外滞在経験がこれまでより増えているし、コロナも５類になりましたし、もう少し積極的に中高生が海外に行けるようにすぐできるのではないかと思っています。

本日のご意見も踏まえて、次期計画の策定を進めていただきたいと思います。

それでは、次の議題に移ります。

・認定こども園に係る利用定員について

（事務局より説明）　・・・【資料２】

（質疑なし）

４．その他

事務局：長時間にわたり、ありがとうございました。次回は令和６年度第１回三田市子ども審議会となります。６月頃開催予定ですが、本調査の結果も踏まえて本格的な子ども計画の策定審議に入っていきたいと考えております。また日程が近づきましたら、改めてご案内させていただきたいと思います。それでは、これをもちまして令和５年度第３回三田市子ども審議会を閉会させていただきます。本日は誠にありがとうございました。

５．閉会